



第 498 号 令和 2 年 1 月 1 日
発行所 京都市学校医会
京都市中京区間之町通竹屋町下ル
楠町601-1 こどもみらい館 2階
TEL (075) 256-0351
FAX (075) 241-3568
発行人 林 鐘 声

令和二年の新春を迎えて

会 長 林 鐘 声

明けましておめでとうございます。旧年中は色々
と有難うございました。今年が先生方にとって良い
年となることを願っています。

昨年12月2日、3日に、ある小学校の30人（3年
生は22人）が水痘発症の診断を受け、その週以内に
学校全体で41人の児童が欠席するという水痘の集団
発生が認められました。中には皮膚科で水イボと診
断され登校していた児童も2人いたそうです。予防
接種歴と発症者を突合せしたところ、接種歴のない
児童は7人、一回接種は26人、2回接種は8人でし
た。接種後に発症した場合、発疹の数が少なく付随
する症状に乏しく、本人や保護者がそれと気付かず
登校する事は十分にあり得ます。11月に3年生の水
痘の欠席者はゼロであったことから考えると、見逃
し例が発端となって12月の第1週の集団発生に結び
ついたと推察されます。今年、他でも同様の事例が
起こりうると考え、途中経過をお知らせしました。

百日咳の動向についても少し触れます。2018年よ
り全数把握となり、2018年に11,190人が厚労省に報
告されました。その内、5～15歳が64%を占め、そ
の81%が4回接種歴者でした。重篤となりうる6カ
月未満の乳児は506人いましたが、多くは小中学生
の兄弟からの感染と考えられ、その小中学生の感染
の場は学校と推察されます。

水痘や百日咳に対する今以上の感染予防対策はす
ぐに出て来そうもない状況の中、学校医が学校関係
者や保護者にこれらの感染症が学校で拡大している
ことに注意を促すことは重要ですので宜しく願い
します。

昨年に続く学校医会の仕事を2点紹介します。

1つは成長曲線の経時的観察から症候性成長障害
をスクリーニングする判定基準についてです。新潟
市などから独自の基準が示されている所ですが、京
都市としてはそれらも参考としつつ検討する予定と
していますので、問題ある例があればご一報下さい。

2つ目は運動器障害の予防のためのストレッチ指
導の計画や、整形外科医が運動器障害を持つ児童生
徒に対して学校やそれに準じた場所で指導する計画
のことです。整形外科医会、教育委員会と協力して
進めていきますので、詳細が決まれば改めて報告し
ます。

関係する会と連携協調しつつ、出来ることを一つ
一つ丁寧に取り組んでいきますので、今年も先生方
のご指導ご鞭撻をお願いします。

最後に、現在のところ決まっている4月までの予
定をお伝えします。

- 2月9日(日) 第34回京都市小学生「大文字駅伝」
- 2月23日(日) 近医連学校医協議会総会 和歌山市
演題発表 京都産婦人科医会理事
小島秀則先生
- 3月12日(木) 令和元年度京都府医師会
学校医部会総会
特別講演 京都精神科医会理事
山下達久先生
- 4月18日(土) 令和2年度京都市学校医会総会
京都ホテルオークラ
特別講演 大徳寺真珠庵住職
山田宗正和尚

新年の御挨拶

京都市教育長 在田正秀

新年あけましておめでとうございます。平素は、子どもたちの健康の保持増進並びに本市教育の発展に多大なる御支援・御協力をいただき、心から御礼申し上げます。

さて、昨年は、『京都市における肥満とやせのマニュアル』について、新たな課題や基準等を盛り込んだ改訂版を貴会にて作成され、各校に配布をしていただきました。子どもの頃から正しい生活習慣を身につけることは、成人後の生活習慣病を予防するうえでも大変重要であります。子どもたちが生涯にわたって健康に過ごしていくことができるよう、御提供いただいたマニュアルを有効に活用してまいります。

また、学校現場においては、働き方改革に向けた取組の中で、①「学校・幼稚園の働き方改革宣言」のもと、社会全体で子どもを育てる取組の推進、②多様な専門職・外部人材の活用や業務改善等による、子どもと向き合う時間の確保、③笑顔と魅力あふれ

る学校づくりと未来を担う教員の育成・支援、人材確保の3点を重点指針に掲げ、様々な取組を進めております。教職員の心身の健康管理につきましては、労働安全衛生法の趣旨に基づき、貴会との連携のもとで「健康管理医制度」を設け、学校医の先生方には健康管理医として、教職員の健康相談を行っていただいております。教育委員会といたしましても、学校医会の先生方と連携しながら、健康相談の更なる活用など教職員の働き方改革の取組を一層推進してまいります。

今後とも、林鐘声会長を中心とする京都市学校医会の先生方との連携の下、子どもたちや教職員のいのちと健康を守る取組のさらなる充実に努めてまいりますので、変わらぬ御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、京都市学校医会のますますの御発展と、皆様の御健勝を心から祈念申し上げます。本年もどうぞよろしくようお願い申し上げます。

新年の御挨拶

京都府耳鼻咽喉科専門医会会長 大島 渉

謹賀新年 明けましておめでとうございます。令和の時代となりまして、初めての正月であります。先生方におかれましては、令（うるわ）しく平和な新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。迎えました新しい年におきましても、旧年にも増して子供たちの健康管理について充分にご注意並びにご高配をいただきます様お願い申し上げます。

昨年10月12日に上陸しました台風19号が、関東地方から東北地方にかけて甚大な被害をもたらしました。90名を超える方々が無くなられ、心よりご冥福をお祈りいたします。台風19号のような大型台風やゲリラ豪雨など異常気象が最近続いております。今後、子供や孫たちの時代が少々不安になって参ります。異常現象とともに氷河消滅など地球の温暖化については、世界的な規模でその防止策に取り組まな

ければならない問題かと考えます。子供達やその後の世代が安心安全に過ごせる環境を残さなければなりません。

さて、耳鼻咽喉科学校医は次の原則に従い決定されています。

- ①当該地区京都府医師会医師会員であること
- ②京都市内および京都府下に診療施設を置く、京都府耳鼻咽喉科専門医会A会員であること。
- ③資格要件を満たすものを京都府耳鼻咽喉科専門医会役員会の承認を経て、京都市教育委員会へ推薦する。
- ④当該の学校長及び園長を通じて、学校医として承認される。

以上のような過程で決定されています。最近、急病や急用のために学校検診医の交代が安易に行われ

ている場合があります。どうぞ、このルールを順守していただきますので、学校医の資格を満たす先生に代理を依頼するか、代理の無い場合には京都府耳鼻咽喉科専門医会までご連絡いただきたく思います。

何卒よろしくご協力のほどお願いいたします。

結びに、学校医先生方の今後のご健勝と益々のご活躍を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年の御挨拶

京都府眼科医会会長 高橋義公

明けましておめでとうございます。健やかなお正月をお迎えのことと存じます。眼科学校医として、今年も児童の目の健康を守り、健やかな成長の手助けをしたいと願っております。

さて、昨年話になって恐縮ですが、9月末に担当校の運動会の見学に行きました。児童が、きらきら目を輝かせて、演技に取り組む様子に、何度も目頭が熱くなりましたし、徒競走やリレーで「○○ちゃん、がんばれ」と、熱い声援を送る保護者や先生の態度にも感動しました。この児童たちの目の健康を守ってあげないといけないと決意を新たにしました。

眼科学校医は、健診で視力をチェックし、前眼部の病変や眼位の異常をみています。視力が低かったり、病変があれば、お知らせのプリントを渡しています。主に1年生で色覚検査も実施しています。また、学校保健委員会（担当校では年2回開催）では、まず、視力1.0未満の場合は、必ず眼科を受診することを強調しています。視力低下が軽度でも、遠視

や強い乱視のことがあり、適切に治療をしないと弱視になってしまうこともあります。又、最近の近視の児童の増加に対して、進行抑制のための注意点を話しています。そして、子供のコンタクトレンズ使用上の注意点など様々な提言を行っています。

先日、面識のある小学1年生の児童の保護者から、視力がB判定でも眼科受診が必要ですか？と相談を受けました。受診を勧めたところ、来院しました。検査をすると、とても強い遠視があり、片眼の矯正視力は0.8で弱視でした。診断結果に母親は驚いていました。年の離れた兄はB判定だったけど、1度も眼科を受診したことがなかったそうです。

「塾があるので、診察には来られない」などと言う保護者もあり、教育には熱心なものにもかかわらず、目の健康に対する理解が低いのは残念なことです。

児童の健康を守る体制はかなり整ってきているので、今後は保護者へのさらなる啓発も必要ではないかと感じています。今年もよろしく願いいたします。

第50回全国学校保健・学校医大会 第3分科会（からだ・こころ-3）

福西小学校医 奥村正治

この第3分科会は、運動器検診の話題4題、喫煙の話題2題、成長曲線、健康食品の話題が1題ずつの計8題でした。

1. 東京の渡辺航太先生の「側弯症学校健診の課題と今後」
2. 京都の林鐘声先生の「脊柱検査時の上半身脱衣の対応-政令指定都市教育委員会へのアンケート結果-」
3. 東京の猪狩和子先生の「豊島区立小中学校における過去9年間の骨密度測定結果と考察」

4. 島根の吉直正俊先生の「着衣状況と側弯症一次検診結果」
5. 奈良の高橋泰生先生の「学校医が一瞬で成長曲線を描く」
6. 和歌山の村上浩一先生の「小・中学生の感想文からみた喫煙意識-テキストマイニングによる分析-」
7. 埼玉の黒沢和夫先生の「受動喫煙検診10年間の変遷」
8. 日本栄養士会の迫和子先生の「子どもと健康食

品について」

この順で発表が行なわれました。京都からの林先生の話が、京都から参加した者にとっては、という気でしたが、発表後フロアからの質問はなく、少し気落ちした感もありましたが、我が京都市では、他県よりも先行の様な形で運動器検診が進められており、脱衣の話題も、京都市の学校では、校医・学校現場・教育委員会がタッグを組み、運動器検診を進めており、政令指定都市20都市の中、4都市のみが脱衣の形で運動器検診を進めているのが現状です。他の16の都市は、教育委員会を含め、脱

衣の協議があまり行なわれておらず、現場の学校医の先生を中心に方向性を決定している様で、文科省からは検診マニュアルが発刊されているにも関わらず、津津浦浦には浸透していないようです。今だに検診時のプライバシーを話題にしている県もあり、他県では運動器検診が行ないにくい様に思われました。今後はどの県も三者タッグが必要であり、その方向を期待したい。

別会場にて、京都市の安野哲也先生の話も教育委員会とタッグを組んでいるから発表出来る話題でもあると考えさせられました。

第50回全国学校保健・学校医大会 第4分科会

京都府耳鼻咽喉科専門医会理事 鈴木由一

今年度は埼玉県大宮市の大宮ソニックシティ/パレスホテル大宮にて開催されました。

第1分科会～第5分科会まであり、私は第4分科会の耳鼻咽喉科に出席しました。座長は谷本秀司埼玉耳鼻咽喉科医会長と酒井文隆埼玉県医師会学校医会常任理事の二人で進められました。

演題は8題あり前半4題は健診の関するもの、後半4題は健康教育への取り組み、摂食障害、言語訓練、難聴児補聴器購入事業に関するものでありまし

た。前半では就学時健診を含めた健診の問題で学校医の配置や養護教員の教育、また後半の演題では健診のみならず学校保健委員会への参加、健康教育、健康相談に耳鼻科医として積極的に取り組まなければならない等々約2時間にわたって熱心な質疑応答が行われた。

なお、抄録がHPに掲載されています。閲覧の際には公式ホームページでID:saitama PW:1123を入力してご覧ください。

謹 賀 新 年

令和2年 元旦

会 長	林 鐘 声
副 会 長	井 本 雅 美
”	杉 本 英 造
専務理事	山 内 英 子
常任理事	大久保 秀 夫
”	安 野 哲 也
”	川 勝 秀 一

常任理事	西 村 康 孝
”	中 嶋 毅
監 事	長 村 吉 朗
”	東 道 伸二郎
議 長	奥 村 正 治
副 議 長	井 上 喜 美 子

京都府眼科学校医会幹事 嶋 元 孝 純

京都府耳鼻咽喉科専門医会理事 鈴 木 由 一